LM地議連調査
「地方議会は未来の有権者にどのように見られているのか？」

未来の有権者意識調査　結果と課題
～一票の実感がもてる政治へ～

MANIFESTO SWITCH

マニフェストを読んで選挙に行こう。

早稲田大学マニフェスト研究所
mani@maniken.jp

LM地議連「未来有権者調査」の目的

- 2016年参院選での「18歳選挙権」実現をまえに、
  「若年層の政治参加意識の向上」および、
  「政策で選んで選挙にいく有権者を増やす」ための
  しかけの１つとして、未来の有権者の意識を調査する。

① **政治や政治家（地方議員）はどのように見られているのか。**

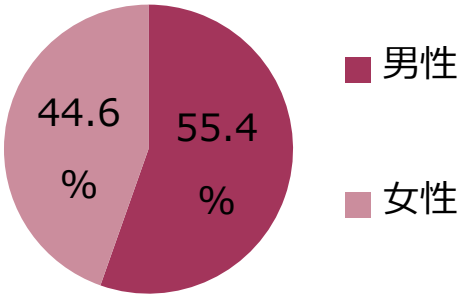
② **政策は伝わっているのか。政策で選んで選挙にいくために、どのような材料が必要か。**

調査の概要

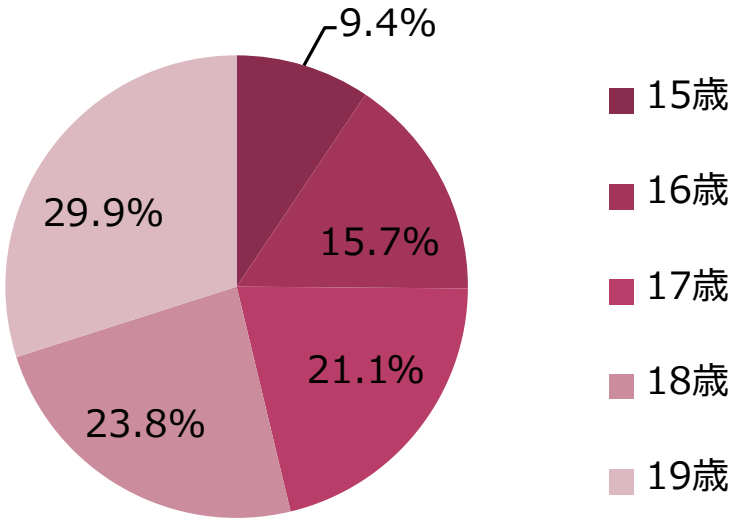
■調査方法	インターネットリサーチ
■実施期間	2015年07月22日～28日
■調査対象	全国の15歳～19歳男女
■有効回答数	932人

割り付け：15歳～19歳に対して回答収集（男女半数割り付け）
※男女比が男性55%、女性46%であるため、全体の集計結果に
男性側に寄ったバイアスを割り引いて考える必要がある。

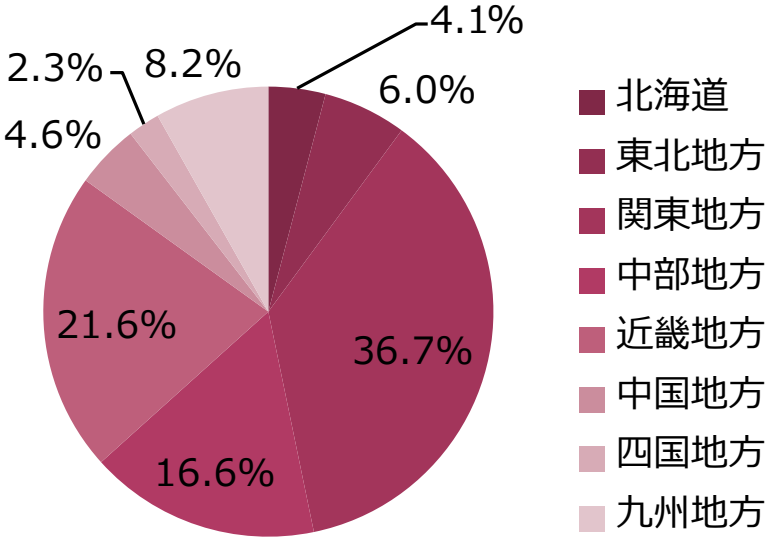
性別（n=932）



年齢（n=932）



地域（n=932）

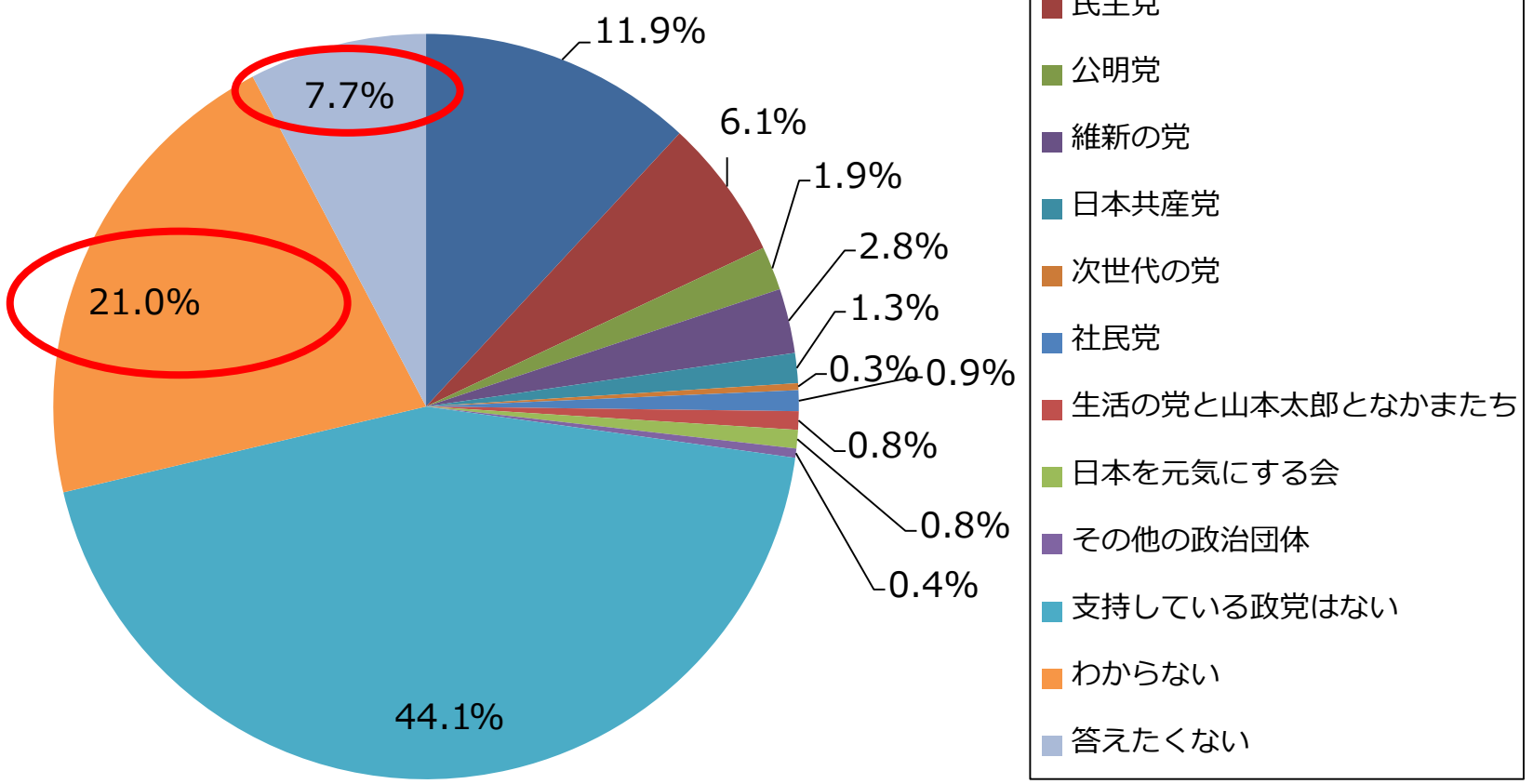


■未来有権者の政治意識

政治意識① 支持政党

- おおむね成人と変わらず。「わからない」「答えたくない」の回答の多さに特徴あり。

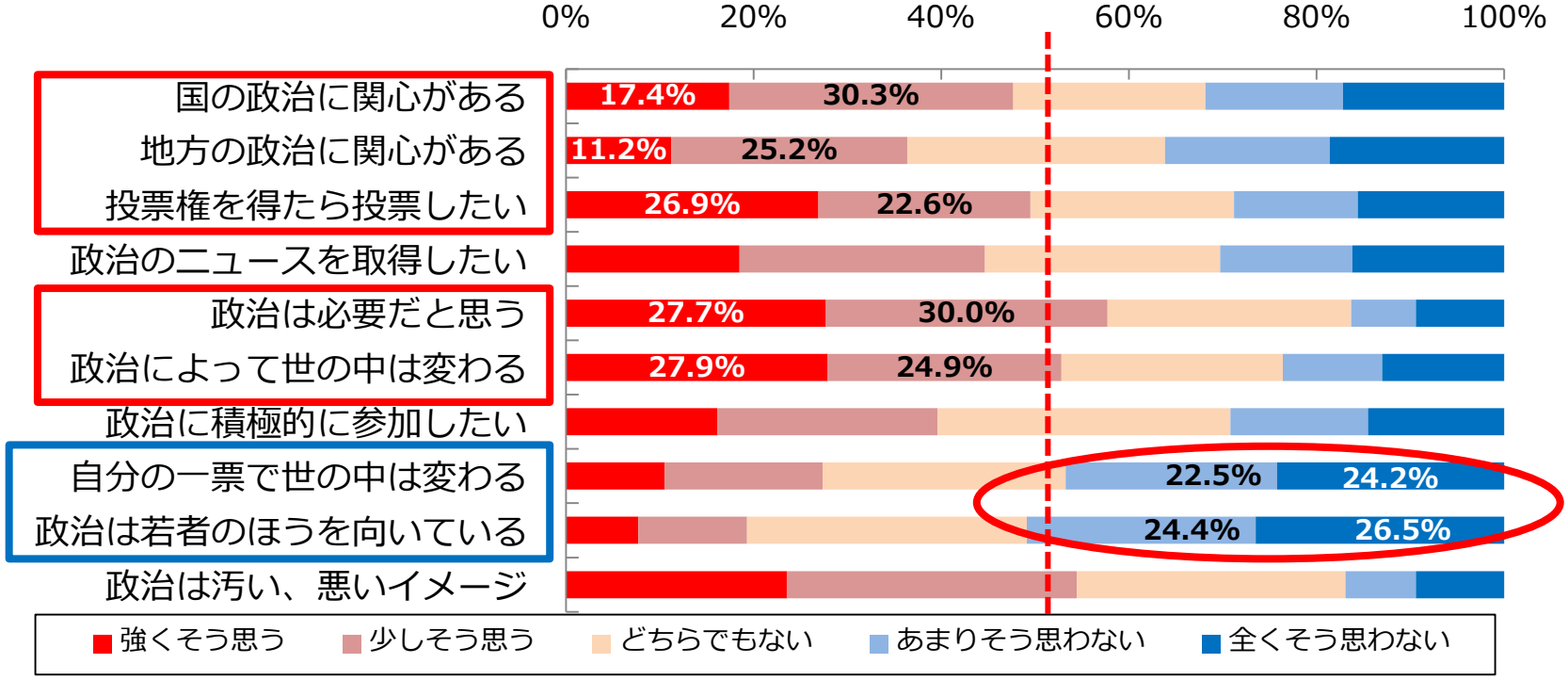
Q1 ふだんの支持政党を教えてください。（n=932）



政治意識② 関心、投票意向

- 「政治関心」「投票」は約半数で高い。「政治の必要性・有用性」は感じている。
- 一方、「政治は若者を向いていない」50.9%、「自分の一票で世の中は変わらない」46.7% ⇒ 政治との「距離感」「無力感」が数字として表れている。

Q2 あなたは政治に関心がありますか。また、投票権を得たら選挙で投票したいと思いますか。加えて、政治に対するイメージも教えてください。（n=932）



【未来有権者】政治意識まとめ

- 未来有権者の政治意識は、有権者と大きく違うわけではない
- 政治への関心、投票意向も約半数と高い
- 政治の必要性・有用性は理解
- 一方で、「政治は若者を向いていない」
  「自分の一票で世の中は変わらない」

➢ **若年層の政治との「距離感」「無力感」**

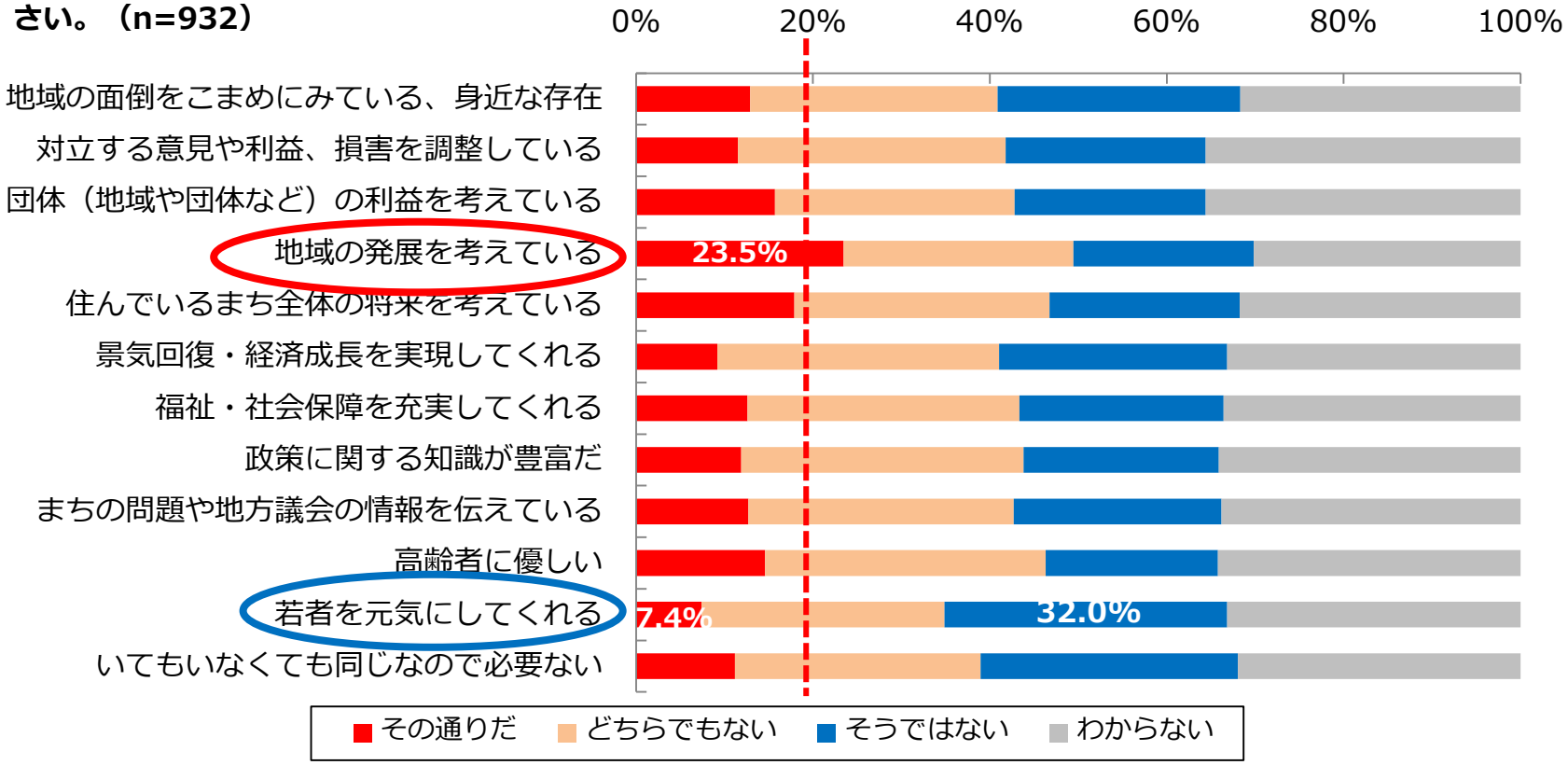
⇒ 若年層の「政治離れ」「政治不信」の根幹にこれがあることをしっかり押さえるべき

■地方議会は未来の有権者にどのように見られているか？

地方議員① イメージ

- 際立って高い数字はなく、2割を超える回答は「地域の発展を考えている」のみ。
- ここでも「若者への目線」は否定的。

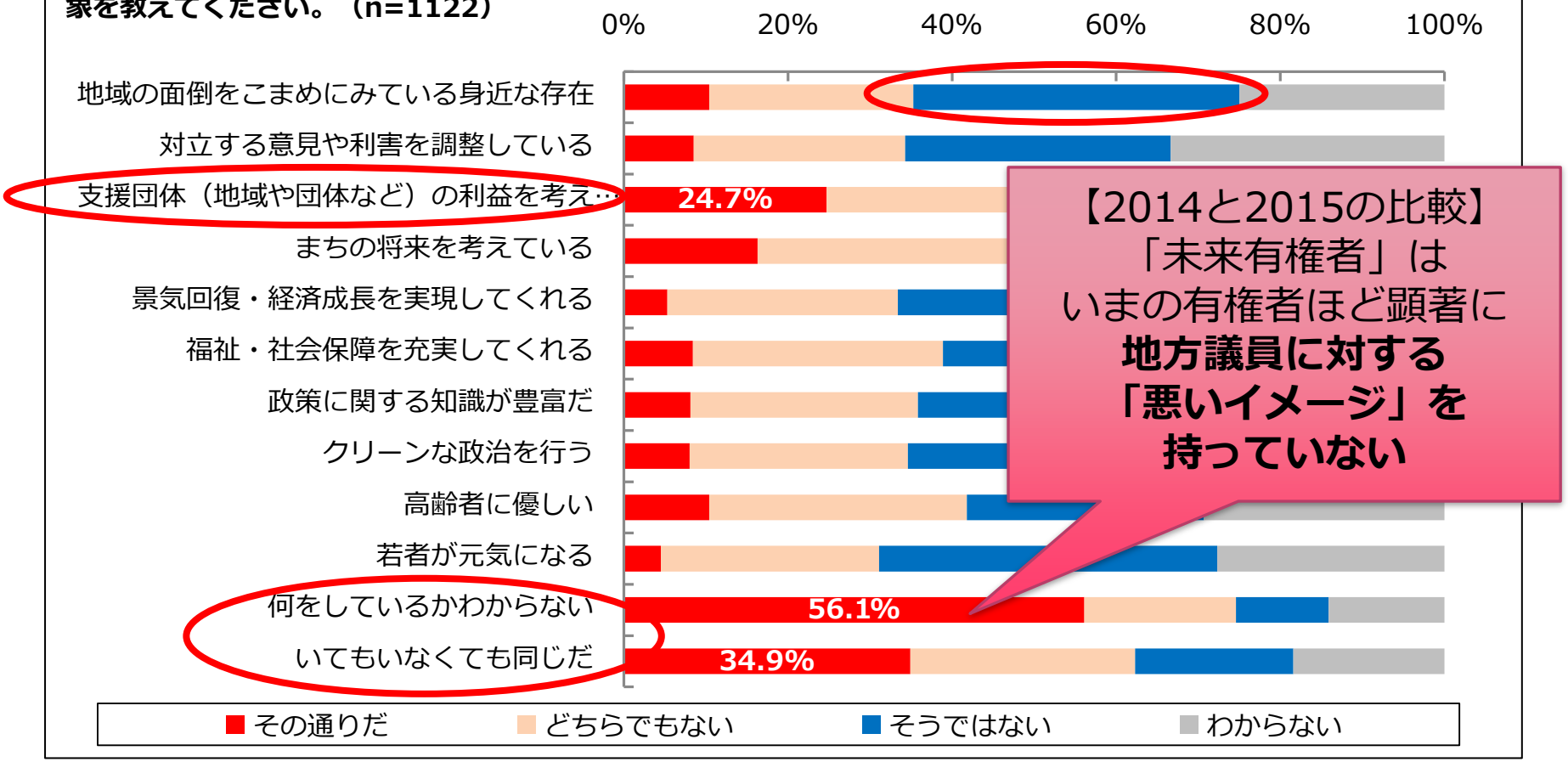
Q6 地方議会（都道府県、市区町村議会）の議員について、あなたが持つ印象をおしえてください。（n=932）



【2014年実施 有権者との比較】地方議員のイメージ

- **「何しているか不明」56％、「いなくても同じ」35％、「支援団体の利益」25％**

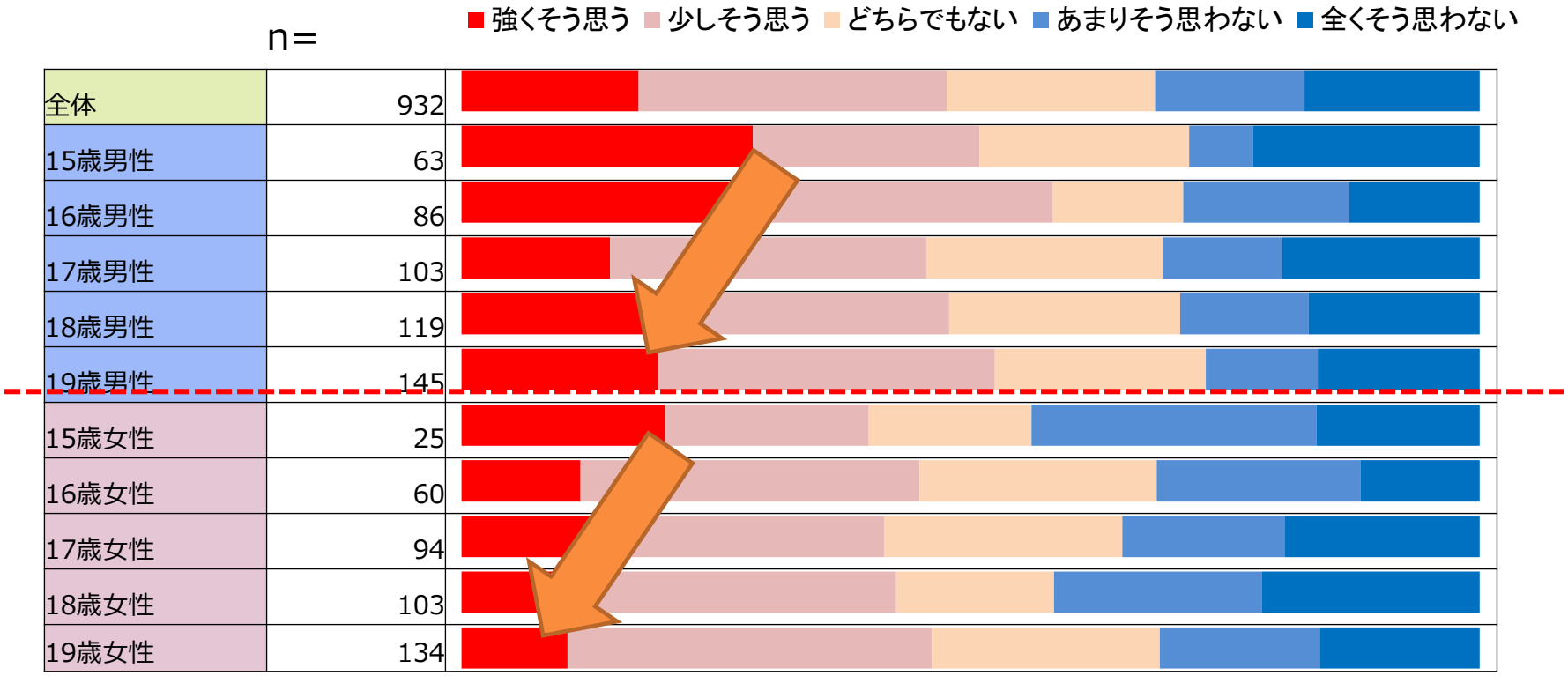
Q6 あなたが住んでいる地域の議員（都道府県議会、市区町村議会）について、あなたが持つ印象を教えてください。（n=1122）



【参考】年代・性別ごとの政治意識クロス集計：政治関心

- 「国政への関心がある」と「強く思う」層は、男性15～16歳で約3割にものぼるが、男性19歳で2割程度。女性でも15歳と比較すると19歳で半減する。
- 男女を比較すると、女性のほうが政治に対する意識が低い傾向がある。
- 他の政治意識の項目でも、歳を重ねるごとに数字が低くなる傾向がある。

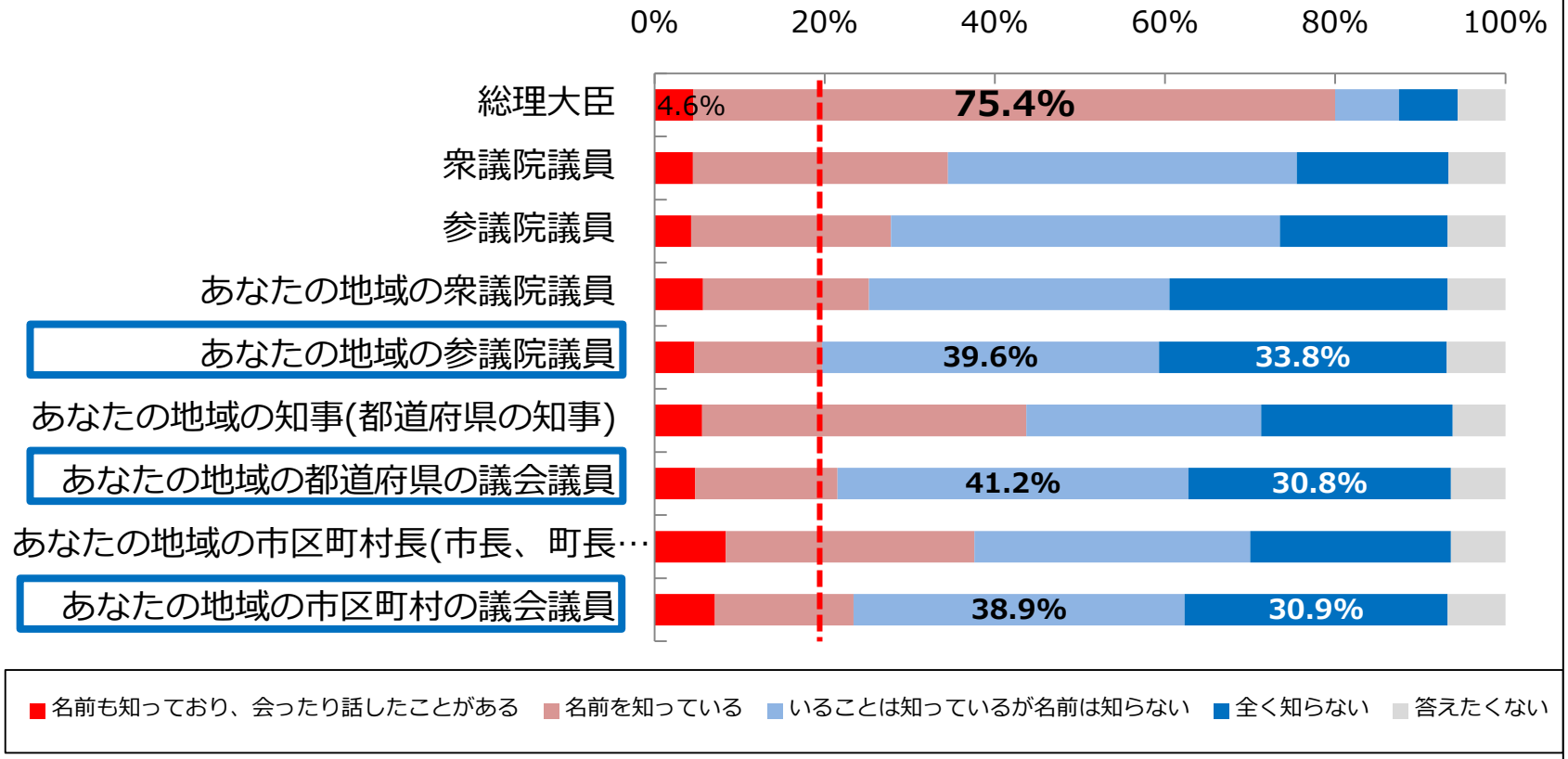
Q2あなたは政治に関心がありますか。国の政治に関心がある



地方議員②職業ごとの知名度

- **総理・国会議員・首長と比べ、地方議員と参院議員は2割程度と「知名度低」**

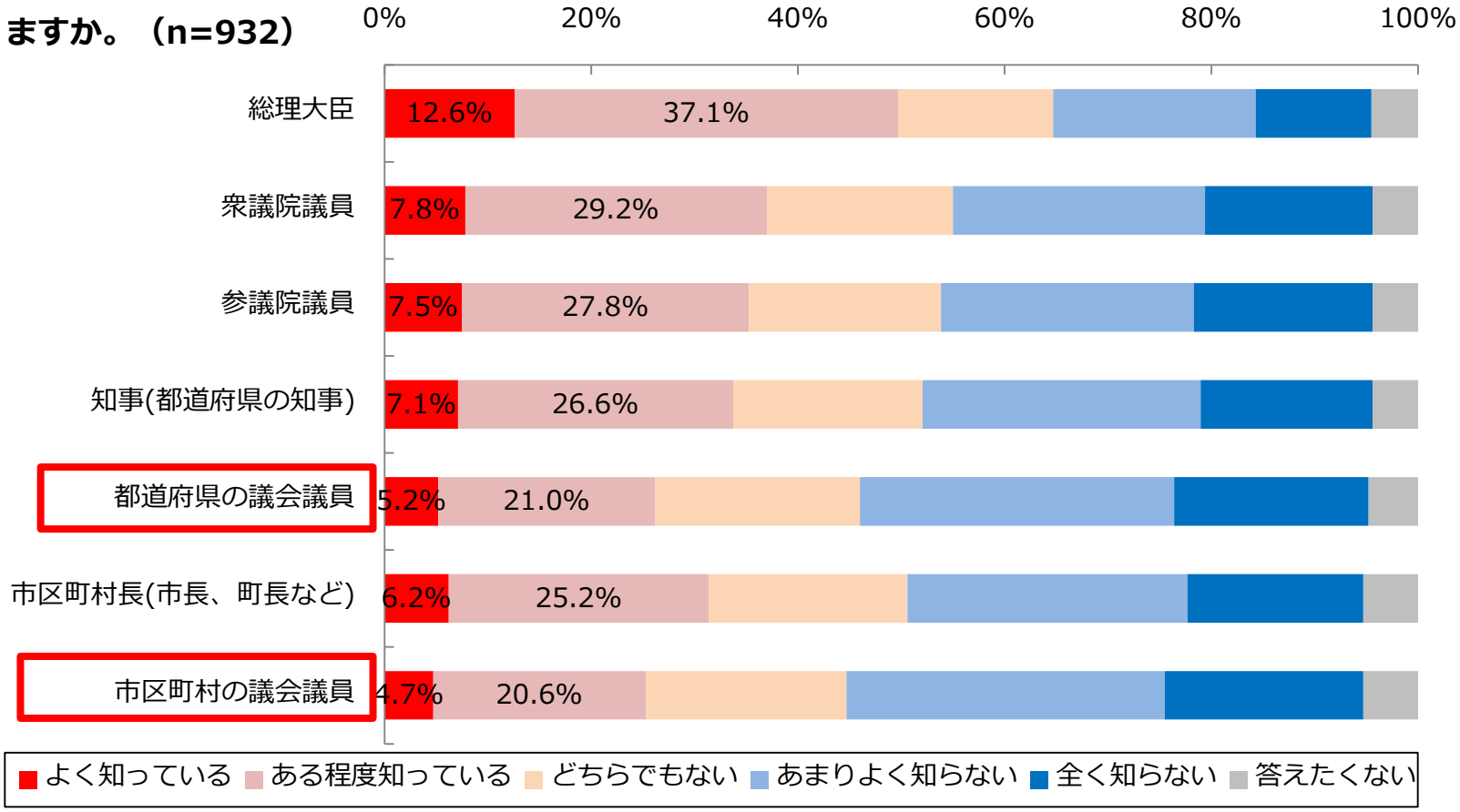
Q5 総理大臣や国会議員、衆議院議員、参議院議員、知事、都道府県議会議員、市区町村長、市区町村議員のうち１人以上の名前を知っていますか。（n=932）



地方議員③職業ごとの仕事理解

- 「地方議員の仕事理解」は25％強と、ほかと比べて若干低い傾向あり。

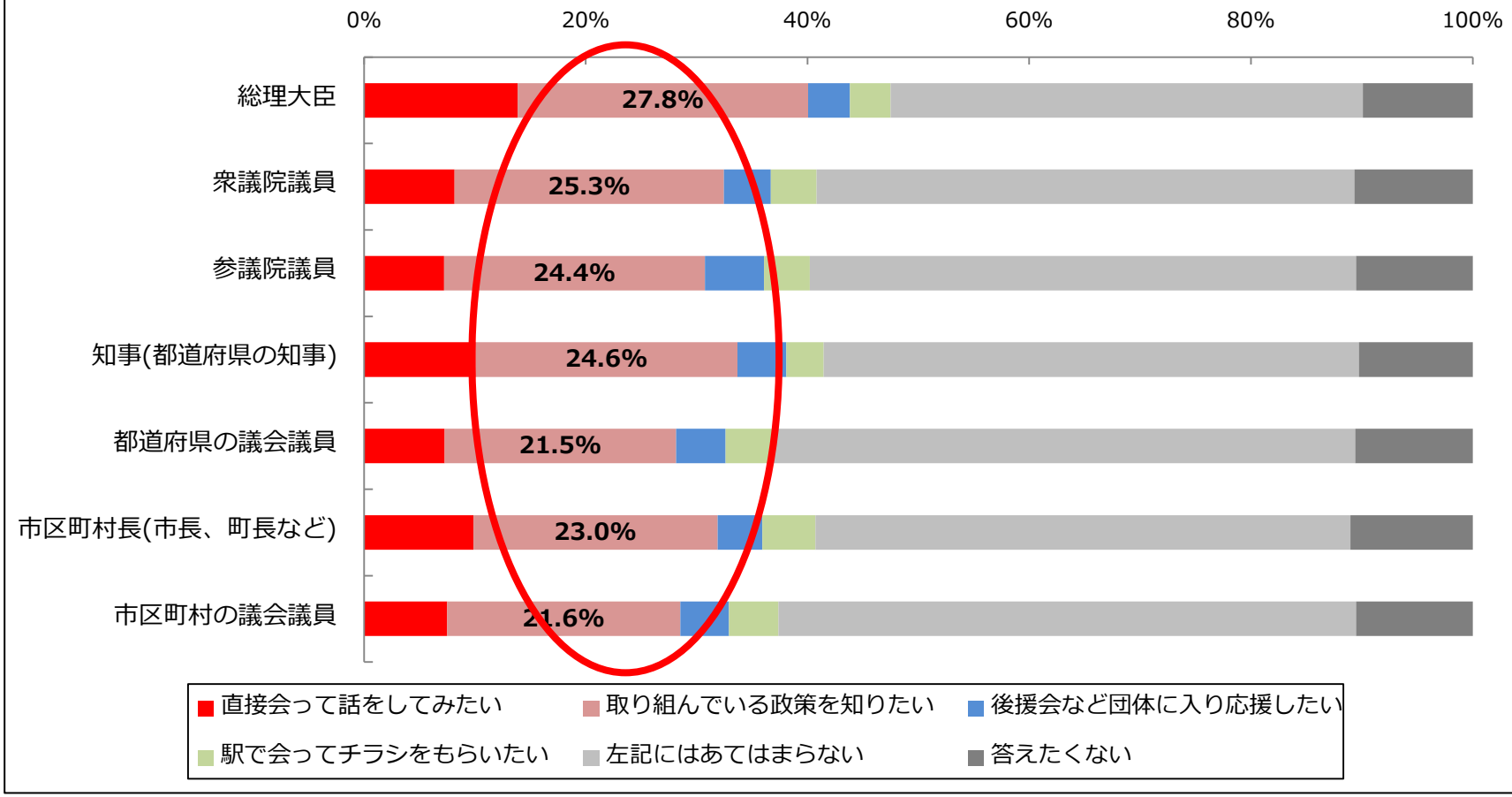
Q6 政治に関わる職業の人たちが、それぞれどのような仕事をしているか、知っていますか。（n=932）



地方議員④職業ごとの接触・行動希望

- **すべての職業で「取り組んでいる政策を知りたい」が2割超で最多。**

Q7 政治に関わる職業の人たちに直接会ったり、応援したいと思いますか。あてはまるものにすべてチェックを入れてください。（n=932）



【未来有権者】イメージまとめ

- 大人の「悪いイメージ」をそのまま引き継いではいけない
- 地方議会の存在感をもっと出す必要性
- 「取り組んでいる政策を知りたい」という声の多さに着目を

➢ **主権者教育、ふだんの活動の重要性**

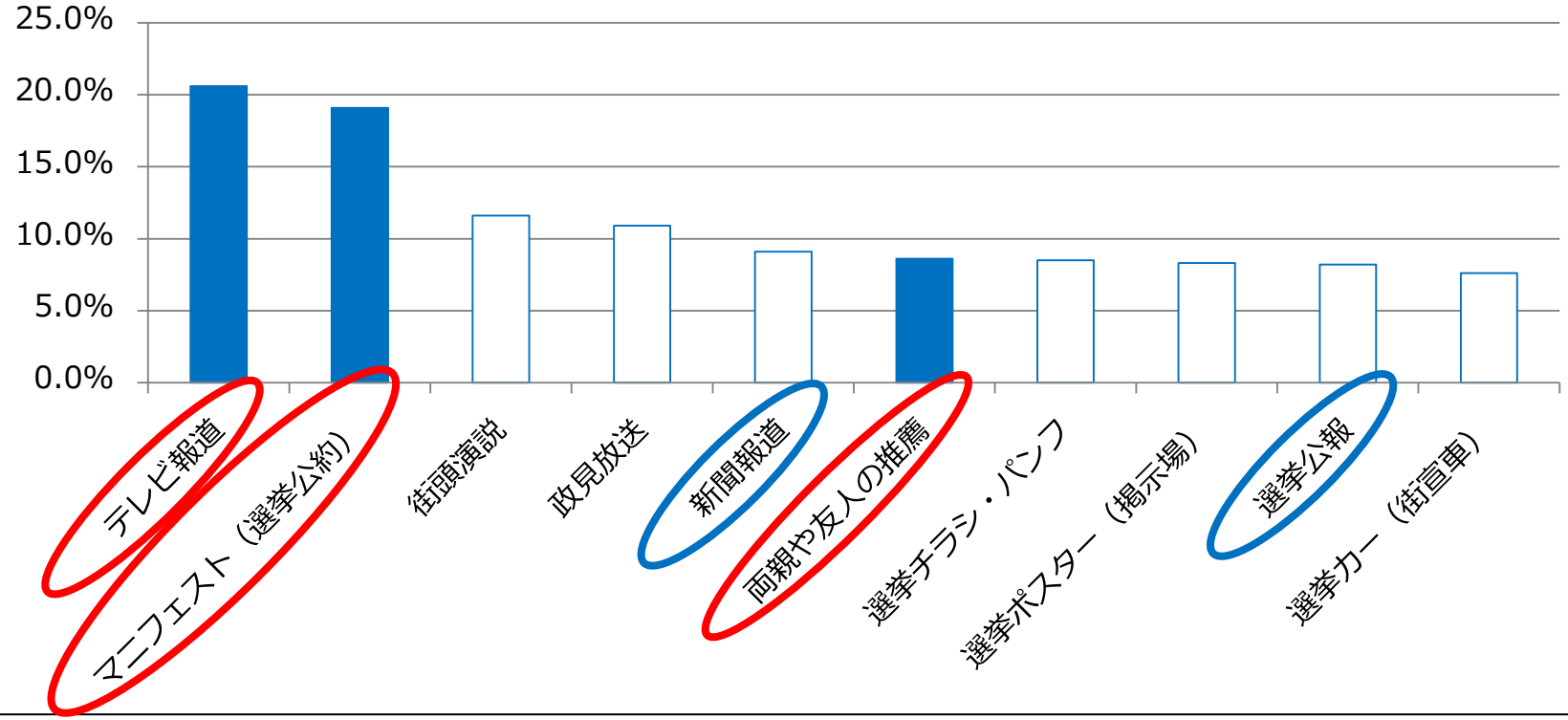
⇒ **悪いイメージから善いイメージへ転換**

■選挙で何を判断材料にして投票しているか？

未来の有権者の判断材料① ツール

- 「テレビ報道」「マニフェスト」が約2割で最多。「街頭演説」と続く。
- 有権者と比べ「新聞報道」「選挙公報」少なく、「両親や知人の推薦」多い傾向。
- 若者＝必ずしもネットが強いわけではない。

Q7 選挙の立候補者への投票先を決める際に参考にしたい情報入手の手段を教えてください。（3つまで）（n＝932）

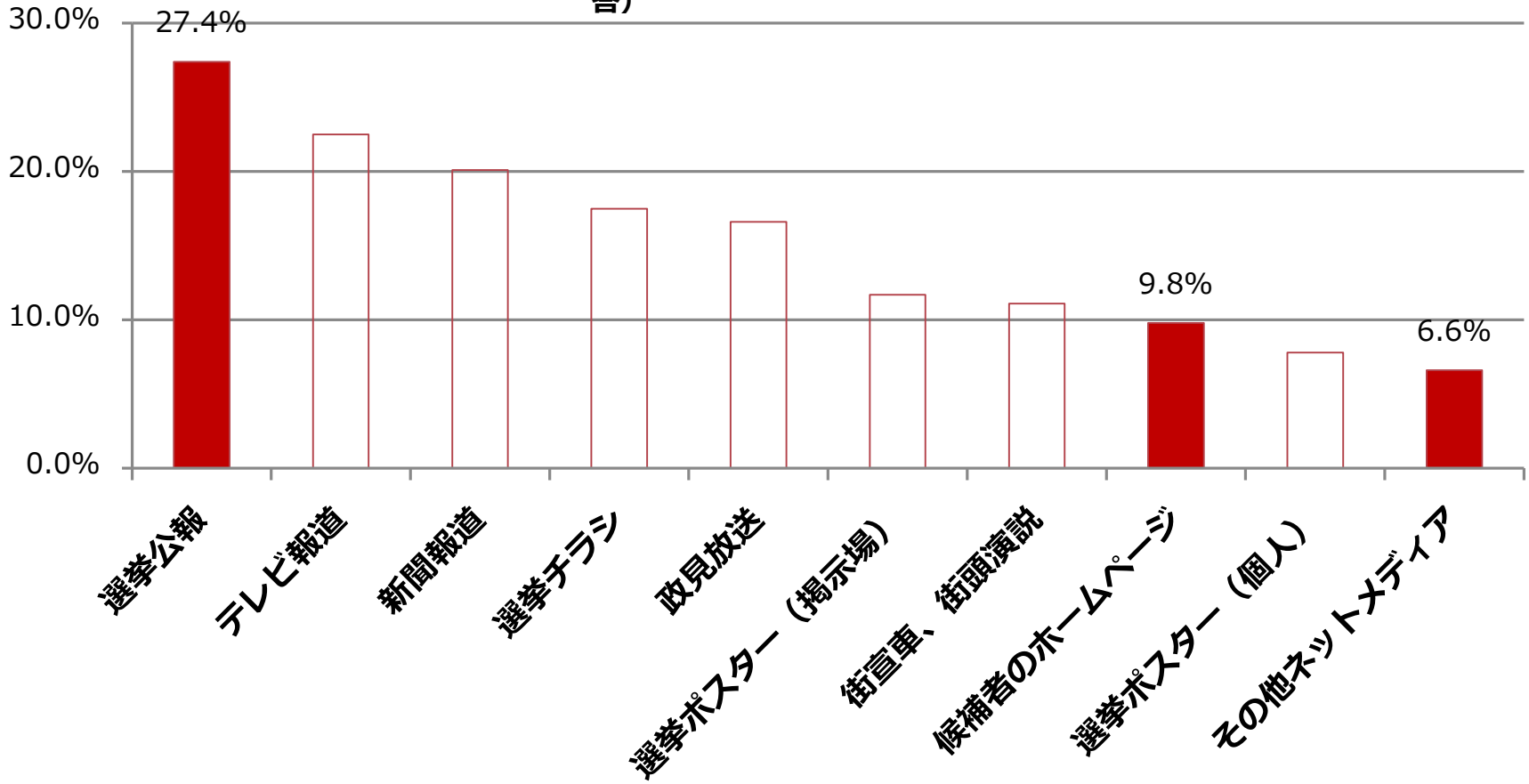


※上位１２項目のみ表示

【2014年実施 有権者との比較】判断材料① ツール

- 「選挙公報」最多。「候補者HP」「ネットメディア」も約１割と健闘。

Q8 あなたが投票先を決める際、参考にするメディア・情報ツールは何ですか。（３つまで回答）



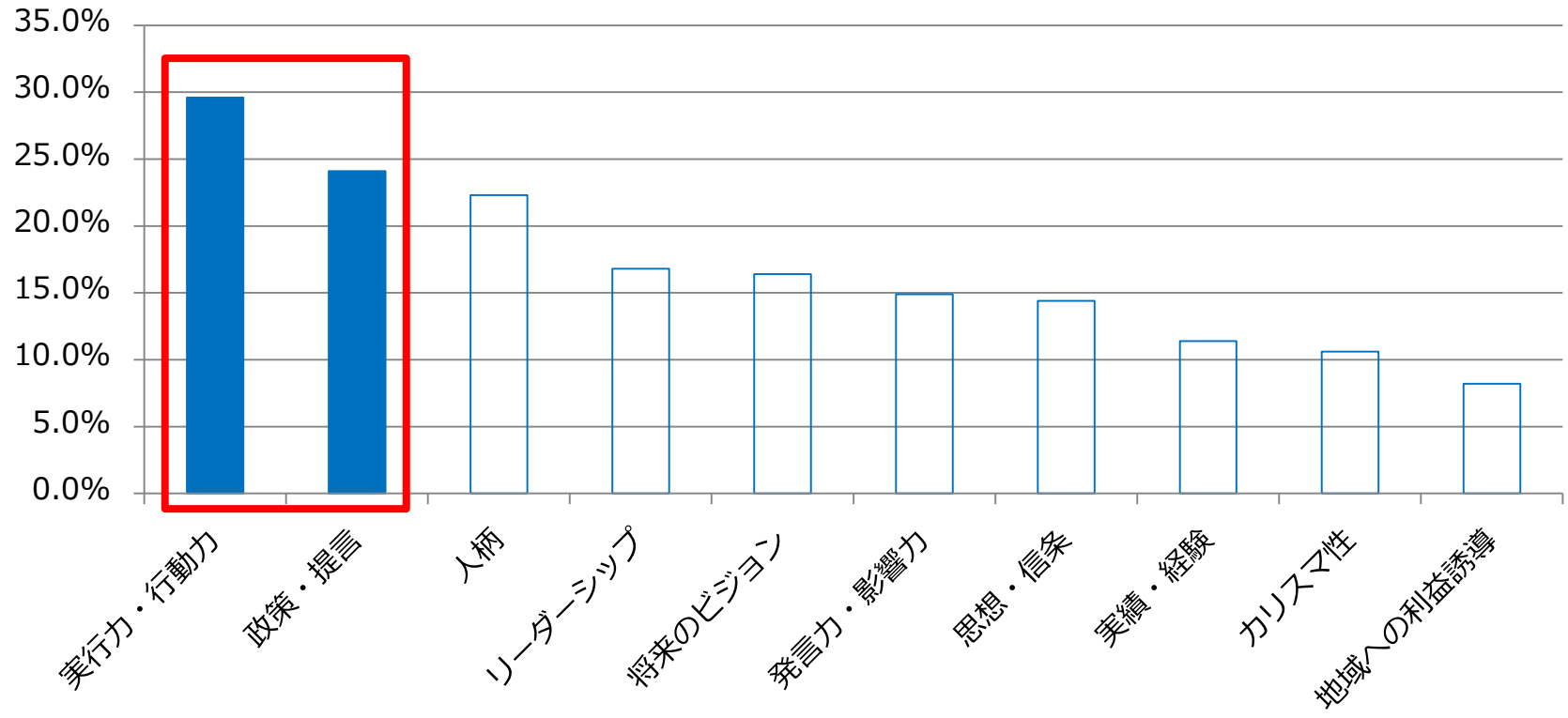
※上位１０項目のみ表示

http://www.maniken.jp/gikai/date/140807LMresearch_PR.pdf

未来の有権者の判断材料② 資質・能力

- 「実行力・行動力」3割、「政策・提言」が25％と上位。次に「人柄」が続く。
- 有権者と比べ、「リーダーシップ」が多く、「所属党派」は特に少ない傾向（7.3％）。

Q8 選挙で候補者を選ぶ際に重視したい資質・理由は何ですか。（n＝932）

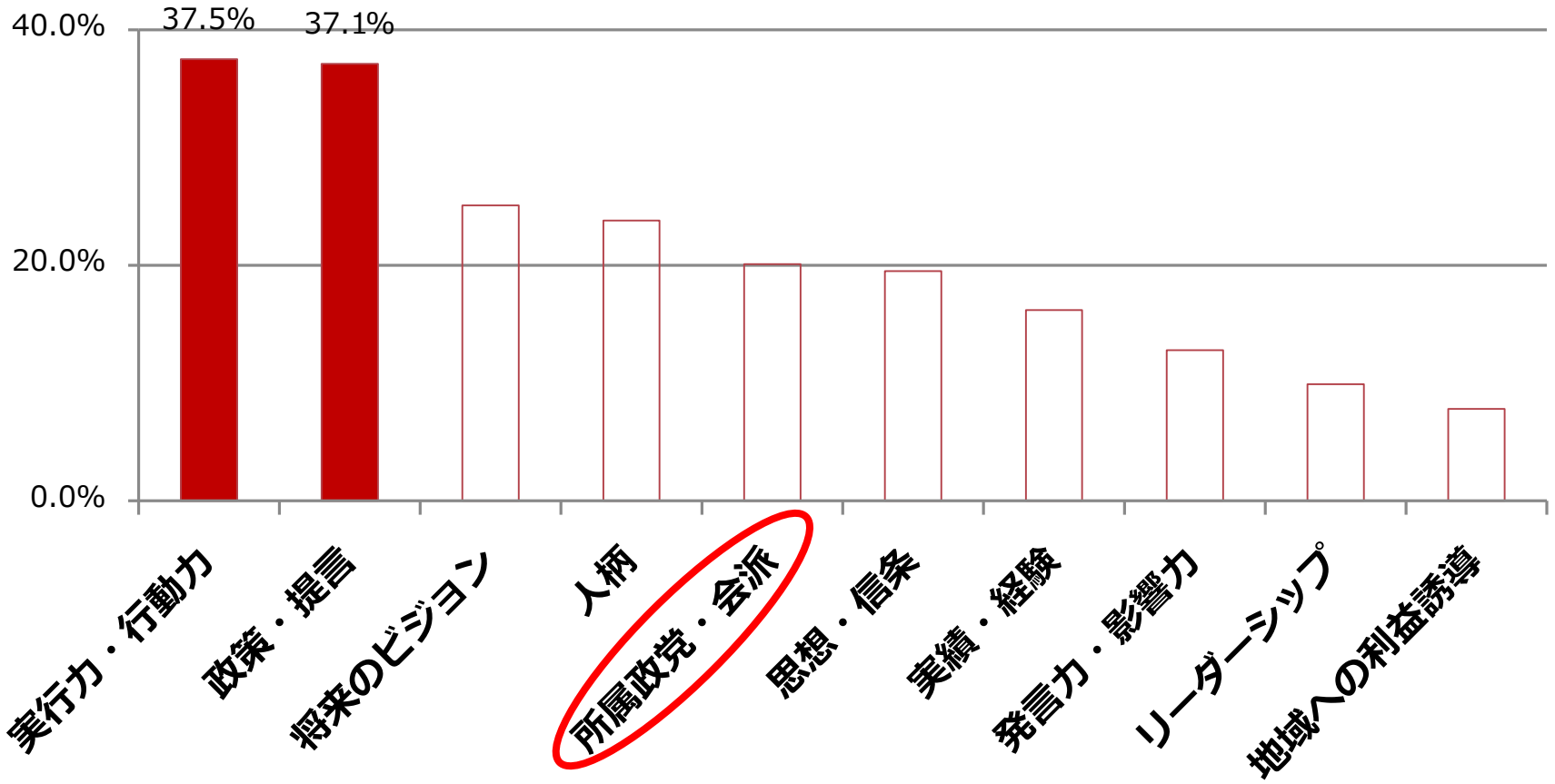


※上位１０項目のみ表示

【2014年実施 有権者との比較】判断材料②資質・能力

- 「実行力・行動力」、「政策・提言」が約4割と、頭一つ出ている。

Q7 あなたが選挙で投票をする際に、候補者を選ぶ理由は何ですか。



※上位１０項目のみ表示

http://www.maniken.jp/gikai/date/140807LMresearch_PR.pdf

【未来有権者】ツール・判断材料まとめ

- **ツール：**
  - 「テレビ報道」「マニフェスト」が上位
  - 有権者と比べて、「新聞報道」「選挙公報」は少ない

- **資質：**
  - 「行動力」「政策」「人柄」が上位
  - 有権者と比べ て「リーダーシップ」に期待する回答が多く、「所属党派」が少ない

  …政党に対する「イメージ」をまだ持っていない表れ

➢ **有権者との違いは、主にツール。**

⇒ 若年層は「新聞」より「テレビ」志向。年代や対象にあったアプローチを。

未来有権者調査：結論

- 「政治不信」の前に、政治との「距離感・無力感」
- 求められるのは、政治に触れる機会の創出と政治で現実が変わる経験
- 悪いイメージを持っていない年代だからこそ、未来の有権者が「悪い思い込み」に支配されず「善いイメージ」を持てるようにすることが必要

- **主権者教育で「実社会とのつながり」を**
  - **地域課題を考える場、模擬議会、模擬選挙**
- **議員など政治家の普段の活動が重要に**

未来有権者調査からの提言

① **政策で勝負しましょう**

- 有権者は未来有権者も含め「政策を知りたい」と思っている
- 未来の有権者は悪いイメージをもっていないので、善いイメージを受け取ってもらえるような活動を

② **立ち位置を変えて伝え方を変えましょう**

- 結果から言うと、地方議会や議員活動がちゃんと伝わっていない
- ツール・メディア、伝え方、コンテンツ（内容）の工夫が必要

③ **感動を与える仕事を**

- 有権者や未来の有権者にもっとも身近な地方議会・議員の活動で未来の有権者に感動を与える仕事を

➢ **形式的から実質的へ＝成果へつながる活動**

⇒ 政治全体の信頼回復へ

【参考】埼玉県知事選の模擬選挙で…

- 男子高校生　「政策で選ぼうと思ったら、わかりづらい。
  自分に関係する政策がなかった」

- 女子高校生　「けっきょく消去法で選んだが、
  それは『消極的な支持』だと気づいた」

- **高校生の立ち位置で「伝える」必要性**
- **本当の意味で若年層の「政治離れ」「政治不信」を変えたいと願うなら、まずはいまの有権者が政治を信じられる環境を整えること＝その1つが「政策型選挙」**

▽本資料の転載、および一部引用が必要な場合は、下記までご連絡ください。
ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟 事務局
担当：青木、永尾（早大マニフェスト研究所内）
TEL：03-6214-1315　MAIL：mani@maniken.jp